

ディスコミュニケーションの理論と実践

授業科目名	ディスコミュニケーションの理論と実践	単位数 2 単位
英語標記	Theories and Practices on Dis-communication	
授業コード	360109	
受講人数	20 人	
担当教員	西川 勝、池田 光穂、西村 ユミ	
対象	全研究科大学院生、3 年次以上の全学部生、社会人（5 名程度）	
開講時間等	第 1 学期＝木曜 5 限（4 月 15 日～）	
開講場所	豊中キャンパス：オレンジショップ（基礎工学部 I 棟 1 階）	
キーワード	ディスコミュニケーション、破壊性と創造性、コミュニケーションの虚構性	
授業の目的	1. ディスコミュニケーションを理論的に考察する。 2. ディスコミュニケーションを実践的に理解する。 3. ディスコミュニケーションの両価性からコミュニケーションデザインの可能性を探る。	
講義内容	[講義内容] 本講義は、ディスコミュニケーションを失敗したコミュニケーションあるいは不完全なコミュニケーションと捉える従来の視点から一歩踏み出して、ディスコミュニケーションの破壊性と創造性をダイナミックに捉えなおそうとします。 その方法として、本年度は「コミュニケーションの虚構性」をテーマとしたグループ作品制作を課題とします。 この授業はグループワークが主体であり、受講生の積極的、協動的な態度が重要です。開講時から数回は、担当教員によるミニ講義の後でグループディスカッションを行います。この間に受講生によるグループ編成をおこない、次に、公開性を前提としたグループ作品の制作に移行します。昨年度は「（うそ）の聞こえない耳」という課題のもとで、映像作品などが制作されました。作品の種類は自由です。 授業の大まかな流れは以下の通りです。状況に合わせて予定を調整します。 ミニ講義の内容として 1、 ディスコミュニケーションとは（入門） 2、 ディスコミュニケーションの諸相 3、 コミュニケーションの虚構性 グループワークの内容として 1、 グループ編成と企画決定、役割分担 2、 グループ作品の制作および経過発表 3、 グループ作品の発表および合評	
教科書	特に指定しませんが、必読文献は受講者に配布します。	
参考書	毎回の授業の中で指摘するほかに、ウェブページ等で提示します。	
成績評価	グループ作品制作を主体とするために、出席を重視します。 平常点を 60 点、グループ作品の評価とレポート課題を合わせて 40 点とします。	

ディスコミュニケーションとは

コミュニケーションには「伝達」「理解」「共有」「相互交流」などの機能があります。このコミュニケーションが失敗することや不全の状況をディスコミュニケーションと呼びます。

人間の社会生活を営む上で、コミュニケーションは重要な働きをします。しかし、実際のコミュニケーションは理想通りに実現されることが少なく、さまざまなディスコミュニケーションが満ちあふれています。日常生活の小さな誤解から、深刻な社会問題に発展する大きな対立まで、ディスコミュニケーションは社会生活の中でさまざまな姿を現しています。

ディスコミュニケーションから何を学ぶのか

大学や大学院で学ぶ諸君は、自らの選んだ専門分野の高度な知識を身につけ、その専門性で社会に貢献することを目指しているでしょう。複雑に役割分化した現代社会において、専門家の果たす役割は非常に重要です。同じ領域の専門家は、自らの専門性を高め、その学問領域を高度に発展させるためにも、相互に専門用語を駆使して、概念的な知識を交換し検証していきます。専門家同士のコミュニケーションは概念的な理解つまり認識知にもとづくものです。このような高度な専門知識は人間生活を向上することに貢献しましたが、他方で別の領域の専門家や一般の人々との円滑な交流や相互理解の妨げの原因にもなっています。あることを理解することには、認識知の他に、臨床コミュニケーションにもとづく臨床知や実践知という別種の「知」があるにもかかわらず、この事実が忘れられているのです。このような「知」の不十分な理解にもとづく、コミュニケーションの失敗や不全がディスコミュニケーションなのです。

ディスコミュニケーションを学ぶことで、良好なコミュニケーションを可能にする要因を知ることができます。概念化することの困難な臨床知や実践知を、ディスコミュニケーションの分析から浮かび上げらせ身につけることは、専門家を目指す諸君にとっては必須の課題です。

ディスコミュニケーション再考

このように考えるとディスコミュニケーションは人類にとって不必要なばかりでなく解消されなければならぬ絶対悪のように思われますが、必ずしもそうではありません。必要な情報を遮断する。コミュニケーションの尺度を測定する。人間生活におけるコミュニケーションの基本的役割を考える。これらの作業をおこなうためには、ディスコミュニケーションに関する根本的考察もまた不可欠になります。

本講座では

受講者はディスコミュニケーションの理論的考察を、教員の講義を初発の契機としてグループワークを通して深めていきます。異なる専門領域の受講者は、議論のなかで自らの立場を相対化する必要に迫られるでしょう。ディスコミュニケーションを実践的に経験することで、具体的な応用力に結びつく知恵を体得することが狙いです。